時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり、時事新報には毎號詳細なる商況物價の

（本號十頁）

第三千百二十七號　明治廿四年九月六日　舊暦辛卯八月四日　（乙、赤）

日出午前五時十七分　入午後六時一分
月出午後七時三十四分　入午後七時三十六分
潮汐午前七時九分　午後七時二十四分
（西暦一千八百九十一年）

時事新報

時事新報の賣捌に付

此程より本社は府下の各新聞社と共に國會、東京朝日の兩社と其賣捌所を區別する事に決したるに此際各地の讀者に對し種々の口實を設け甚しきは延着など申唱へて義報の讀者に他新聞を配達するものある由あれば斯る際には御手數乍ら御一報ありたし速に御購讀の便路を開き可申候尤も斯る御通知を紙上に吹聽して喧々し御迷惑相掛け候樣の事は本社の決して爲さゝる所此段の御諒念無之樣願上候

時事新報配達掛

山地中將の肖像附錄

此程讀者諸君の投票多數に依り第三回の附錄と定りたる山地中將の肖像は例の通り美麗なる石版刷とおし月中旬の本紙附錄として讀者に配布すべし

時事新報

北海雜說　三

工業及漁業

北海道の工業の有樣も先年中内地に流行したる會社熱の狀況に彷彿として諸會社の勃興したるもの其數實に少なからず設計に就てはおの〳〵相應の理由あらざるはなしと雖も大概皆官吏の理論に發起して之を設立維持する者に年來の經驗あるに非ず唯保護の一夢に迷ふて資金を費すと水の如き人々あれば大廈人目を驚かすべし雖も未だ原料を備へたるに非ず烟突雲際に聳ゆと雖も煙を吐くみと甚だ稀あり製品未だ市場に現はれざるに維持既に困難を感するが如き是れ實に今の北海道工業の概況なり必竟局に當る者が吾人を功業を成さんとして空中に樓閣を描き保護奬勵いよ〳〵急にして〳〵失敗を重ねたるものならん其說を問へば或は曰く英國ランカシヤ州の綿業を見よ一莖の棉花の國に生せずして而して其製品は宇内に普及するに非ずや況んや本道の如き甜菜、麻苧、荍麥の如き頗る地味に適して栽培に乏しからざるに於てをや假令ひ不幸にして之を海外に負ぐとするも猶眼前の利益なるべきや疑ひなし且つ決れ此等の原品は他に賣行の勢々しからざるものなれども今若し之を此工場に引受くるときは耕作家も[illegible]

[illegible]

ものは大抵みの簡單なる意味に過ぎざるみとなれば心を靜にして十年二十年の後を計り器械にても建物にても必要に應じて增補するみとし爲し着々損耗を張りて製品の販路を擴むるときは金融の都合と云ひ石炭の供給と云ひ製造上決して絶望の地に非ざるべし實體は多漁業は北海道の最大事業にして巨利全く此にあり從來の實況は魚類の多きを恃んで天然に一任したれども更に規模を擴張して漁業に人爲の改良を加ふるときは益〳〵盛大にして涯りなかるべし道廳に於ける水產の當局者は頗る熱心にして頻りに計畫しつゝある由あれば次第に進歩を見るみとあらんと雖も露國と云ひ米國と云ひ近來漸く太平洋の漁獵に力を用るとの事なれば今より大に警戒して北海漁利の萬々歲ならんみとを斯らざる可らず

今金融の有樣を述べて漁業と工業との關係を示さんに北海道の漁業季節は四月より十月迄にして殘る五箇月餘は寧ろ休業の時期なるが故に四五月より現金を呼び七八月に至て倍々甚だしく而して十月に至れば物產飛散して復た金の用なきより金融者は拱手して以て翌年四五月の來るを待つの常あり左れば內地とは自から繁閑の趣を殊にして年中、闘斷なく融通の途ある內地に比すれば驚くべき高利を見るも亦據なき次第にして漁期の金融實に切迫を極むるみとなれども僅に五六箇月にして呼入れたる正金は內地に還送せざる可らざるみとゝなり其不便に堪へ難けれども是に於てか內地より取組みたる北海道拂ひの爲替劵とあれば競ふて之を買ひ多少の歩合を拂ふて現送の費用を免かれ雙方の利益を見るの事情もありと云ふ右の如き金融の景況なれば之に乘じて冬季閑僦の際に工業を營むときは頗る好都合を得るみとにして我輩が前に北海道の金融工業に利ありと云ひしも此資本金の緩急に依頼せんとする[illegible]

[illegible]

の工風、原料の買入、運搬の方法、製品の[illegible]

[illegible]

[illegible]